

Title	編集後記
Sub Title	
Author	中野, 祐子(Nakano, Yuko)
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2013
Jtitle	新版 窮理図解 No.13 (2013. 7)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000013-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

想像力の拓く地平

—科学と創造性—

杉本麻樹

人工現実感の研究では、私たちの五感をはじめとする感覚情報を再構成して提示することにより、あたかも自分の身体が実世界と異なった別の世界にいるかのような体験を創り出すことが行われます。このような人工現実感の「創造」の原点は、Lewis Carroll 氏の物語（フィクション）として知られる『不思議の国のアリス』です。

人工現実感・拡張現実感の研究の先駆者である Ivan Sutherland 教授は、1965 年の論文「The Ultimate Display」の中で、コンピュータがすべての感覚情報を制御できる究極の提示装置は、「アリスが歩い

た不思議の国」になり得ると人工現実感のコンセプトを説明しています。教授は、コンピュータが純粋な「計算機」として取り扱われていた時代に、コンピュータの中に空間性を持った世界を見出すという極めて卓越した想像力を持っていたことが伺われます。

また、フィクションは、新しい研究を行う興味にも繋がります。再帰性投影技術を用いた透明化の研究「光学迷彩」で知られる稲見昌彦教授らも、この技術について述べた 1998 年の論文「現実感融合の研究（第 2 報）」の中で、土郎正宗氏の『攻殻機動隊』を参考文献としながら研究を説明しています。これは、作品に登場する「熱光学迷彩」という技術が、研究のモチベーションとなっていたからです。

このように、多様なフィクションに親しみ想像力を育むことは、私たちの思考の限界を押しひろげ、新しい可能性を思索する素養になるとともに、それを実現する動機ともなります。科学技術とフィクションとは、常に相補的であり、科学技術に根ざして新しいフィクションが創作され、フィクションに刺激されて次世代の科学技術が創成されるとも言えます。

そして、想像を形にする創造力も研究者として欠かせない大切な要素です。想像力と創造力を兼ね備えた研究者・研究チームが新しい世界を切り拓いていく力を持っています。

ぜひ、皆さんも沢山の物語を楽しみながら、見たことのない世界を創りだす〈想像力 / 創造力〉を育てていただけたらと想います。

理工学 Information

KEIO TECHNO MALL 2013

第 14 回 慶應科学技術展「育てる産学、育つ夢」

日時：12月13日（金）10:00~18:00

場所：東京国際フォーラム 地下 2 階（展示ホール 2）

内容：実演中心の展示と研究者による技術セミナー・ラウンドテーブル

イベント：理工学部創立 75 年記念パネルディスカッション

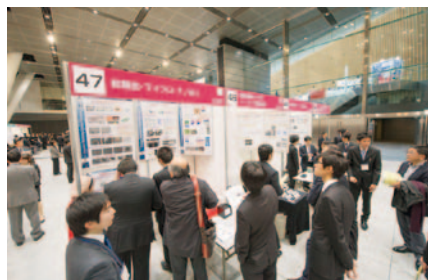
「今こそ大学に求められる世界人の育成：理系男女の挑戦」

（パネラー）辻野晃一郎氏（アレックス株式会社代表取締役社長兼 CEO）

那珂 通雅氏（ストームハーバー証券株式会社代表取締役社長兼 CEO）

遠藤 謙氏（株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所アソシエイトリサーチャー）他

入場無料 ※ 事前登録は不要です



新版 窮理図解



No.13 2013 July

編集 新版窮理図解編集委員会

写真 邑口京一郎

デザイン 八十島博明、石川幸彦（GRID）

編集協力 サイテック・コミュニケーションズ

発行者 青山藤詞郎

発行 慶應義塾大学理工学部

〒223-8522 横浜市港北区日吉 3-14-1

問い合わせ先（新版窮理図解全般）

kyurizukai@info.keio.ac.jp

問い合わせ先（産学連携）

kll-liaison@adst.keio.ac.jp

web 版 http://www.st.keio.ac.jp/kyurizukai

twitter http://twitter.com/keiokuri

facebook http://www.facebook.com/keiokuri

編集後記

最初に杉本専任講師にお会いした時は、表情がやさしく若くて学生のような印象を受けましたが、取材時、研究について目を輝かせて話をされ、学生には探究心を持ち続けてほしいと語る様子は、研究者であり、学生のことを思う教育者の顔でした。

取材のために車両型ロボットによる対戦ゲーム「Augmented Coliseum」などを実演する際には、研究室の学生の皆さんにいったん手を止めていただき、率先して協力していただきました。プロジェクタから 3 次元形状に映像投影する研究の紹介では、先生ではなく、学生が実演と説明をしてくれる場面もありました。

研究室の学生と杉本専任講師とは年齢に近いこともあると思いますが、研究室の雰囲気は和やかでそれでいて活気に満ちていました。

（中野祐子）